

実践 鹿児島市立山下小学校

1 はじめに

本校は、児童数398人、特別支援学級2学級を含む15学級（平成26年4月現在）の中規模校である。西郷隆盛をはじめとする多くの偉人を輩出してきた地域に位置し、子どもたちは、郷土の偉人を育ててきた郷中教育の精神を受け継ぐ校訓「負けるな、うそを言うな、弱い者をいじめな」のもと、日々勉強や遊びに励んでいる。

また、作家の向田邦子、林芙美子が在籍していたこともあり「山下小向田邦子賞」を設け、子どもたちの日記の中から「キラリと光るものがある」ものを選び、毎月表彰を行っている。

2 読書活動推進のための図書館イベント

(1) オリエンテーション

新年度最初の図書の時間に1年生は2時間、2～6年生は1時間実施している。図書館の活用法を定着させるために役立っている。

- ・ 1年生 …… 図書館でのルール・利用方法の説明，貸出・返却の練習。
- ・ 2～4年生 …… 分類について段階的に学ぶ。3年生は2年生の国語の単元「きみたちは図書館たんていだん」と関連させ，4年生では日本十進分類法について詳しく学ぶ。
- ・ 5年生 …… 国語の単元「グラフや表を引用して書こう」で引用について学習することをふまえ，著作権，出典について学ぶ。
- ・ 6年生 …… 図書館利用のまとめとして図書館マップを作成。（1年間図書館に掲示）

(2) 読書旬間（1・3学期），読書月間（2学期）

毎日2冊（金曜日は3冊）貸出，図書委員会・教職員がおすすめの本の紹介，図書委員会による低学年への読み聞かせ，異担任読み聞かせ，うちどくカード展，読書標語展，POPコンテスト，1日図書委員会体験，宝くじ，読書郵便，読書ビンゴ，お正月おはなし会など



図書委員会の読み聞かせ



POPコンテスト最優秀作品
（平成26年度）

3 読書環境の整備

(1) 設営の充実

子どもの読書活動を推進するためには、まず図書館へ来てもらうことが第一歩であるという考えから、子どもたちが気軽に来られて落ち着く雰囲気作りを目指している。入

り口には毎月の貸出ランキングや図書委員会のおすすめの本などを置き、季節に合わせた設営をしている。図書館内にも季節のコーナーを設けており、毎月テーマを変え絵本の展示を行っている。

また、昨年度から設置しているおすすめの本のコーナーも人気で、子どもたちは「先生方のおすすめ」、「毎月のおすすめ」、「色々な人のおすすめ」、「みんなのおすすめ」の4冊のファイルを見て本を選ぶ参考になっている。



図書館入り口

(2) 使いやすい書架作り

より使いやすく、図書館を明るく開放的に見せるために、平成22年度に書架の全面的な配置換えを行った。読み物を図書館前方、それ以外の本を後方に分類番号順に整理したことで調べ学習スペースを確保でき、授業の中での図書館利用も便利になった。

また、棚の全ての段に、その段に何の本が入っているのかを示す棚サインを表示したことで、どこにどの本が入っているのかが明確になり本を探しやすくなった。



サイン

4 連携

(1) 校内での連携

本校では、教育課程に読書指導を位置づけ、学校全体で読書推進に取り組んでいる。全体の読書のめあてと学年別の読書指導目標、それに沿った活動内容を毎月設定しており、それをもとに指導を行っている。図書館からは、読書のめあてに応じたおすすめの本のリストを学年別に毎月配布している。

(2) 親子読書会、学校支援ボランティアとの連携

毎週火・木曜日に朝読書の時間を15分間設けている。親子読書会（昭和35年設立。今年度会員数30人。）と学校支援ボランティアの方々には、その時間帯に読み聞かせをしていただいている。一月に3～4学級ほど入っていただいているが、子どもたちは嬉しそうに話に聞き入っている。

5 おわりに

このような活動を行ってきた結果、読書意欲の向上が見られた。平成25年度の年間平均貸出冊数は、21年度から74.1冊増加の165冊であった。また分類についての理解が深まったことで、必要な本を自ら探し出す力が身に付いてきている。今後さらに情報リテラシーについての指導も深め、調べ学習の充実を図っていきたい。

本好きの子どもが増えている一方で、読む力にそぐわない本を借りる子どもも目立つ。好きな本を自由に読むことも大切であるが、それぞれの読む力に合った本を選ぶような手立てを検討し、文章を読み解く力をもっと高め、読書の幅を広げていきたい。また、家庭との連携もまだまだ不十分である。うちどくの推進や保護者向けの図書館便りをさらに充実させ、連携を強めていきたい。